TAKE NINAGAWA

大竹伸朗　Shinro Ohtake

1955　東京都生まれ
1980　武蔵野美術大学 造形学部油絵学科卒業

主な個展

2025　「網膜」Take Ninagawa、東京
「大竹伸朗展　網膜」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、香川
2022　「大竹伸朗展」東京国立近代美術館；愛媛県美術館；富山県美術館 – 2023
「銅の時代 1978–2022」銀座蔦屋書店 Ginza Atrium、東京
「Shinro Ohtake」greengrassi、ロンドン
2021　「残景」Take Ninagawa、東京
2019　「大竹伸朗 1975–1989」Take Ninagawa、東京
「大竹伸朗 ビル景 1978–2019」熊本市現代美術館；水戸芸術館現代美術ギャラリー
2016　「Shinro Ohtake：Paper-Sight」シンガポール・タイラー・プリント・インスティチュート
「時憶」Take Ninagawa、東京
「Show-Case project No.3 大竹伸朗 時憶／フィードバック」慶應義塾大学三田キャンパス、東京
2014　「大竹伸朗」パラソルユニット現代美術財団、ロンドン
「既憶景」宮浦ギャラリー六区、直島、香川
2013　「大竹伸朗 ‘00– ‘12」Take Ninagawa、東京
「大竹伸朗 : 憶速」高松市美術館、香川
「大竹伸朗展　ニューニュー」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、香川
「焼憶展」INAX ライブミュージアム世界のタイル博物館、常滑、愛知
2012　「大竹伸朗」アートソンジェ・センター、ソウル
2011　「大竹伸朗展」佐賀町アーカイブ、東京
2010　「#65　2005–2010」Take Ninagawa、東京
「#65」Take Ninagawa、東京
2009　「貼貼／ Shell & Occupy 4」Take Ninagawa、東京
2008　「貼貼／ Shell & Occupy 3」Take Ninagawa、東京
「貼貼／ Shell & Occupy 2」Take Ninagawa、東京

Take Ninagawa

「貼／ Shell & Occupy」Take Ninagawa、東京

2007 「大竹伸朗と別海　2007 年」ウルリー牧場、野付郡、北海道

「大竹伸朗　路上のニュー宇宙」福岡市美術館；広島市現代美術館

2006 「ヤバな午後」NADiff、東京

「大竹伸朗と別海展」ウルリー牧場、野付郡、北海道

「大竹伸朗　全景　1955–2006」東京都現代美術館

「旅景　Tabi-kei」ベイスギャラリー、東京

2005 「On Paper」ベイスギャラリー、東京

2004 「『UK77』写真、絵、貼　1977–78 年」ベイスギャラリー、東京

2002 「Bldg.」ベイスギャラリー、東京

「Man Is Basically Good　大竹伸朗個展　1982–2000」ベネッセハウス、直島コンテンポラリーアートミュージアム、香川

2001 「大竹伸朗デジタルワークス　鼠景／マウスケープ」エプソンイメージングギャラリーエプサイト、東京；NADiff、東京

2000 「10.08. 武満徹 Songs+ 大竹伸朗」NADiff、東京

「ダブ景 大竹伸朗」KPO キリンプラザ、大阪

「大竹伸朗展」ベイスギャラリー、東京

「大竹伸朗　既景 1978–2000」セゾンアートプログラム・ギャラリー、東京

1999 「ZYAPA И ORAMA　大竹伸朗展」パルコギャラリー、東京

1998 「大竹伸朗展」コモンズ・ギャラリー、ハワイ大学マノア校美術学部、ホノルル

「ネガな夜 大竹伸朗展」西武アート・フォーラム、東京

「新津：あいまいで私が日本　大竹伸朗展」新津市美術館、新潟

1997 「大竹伸朗　イン・プリント」NADiff Gallery、東京

「大竹伸朗　Printing /Painting」CCGA 現代グラフィックアートセンター、須賀川市、福島

1995 「大竹伸朗　網膜」高島屋コンテンポラリー・アートスペース、東京

「大竹伸朗展 X+Y=LOVE」ストアデイズ、東京

1994 「大竹伸朗の新作版画展　カスバの男　モロッコ日記」アール・ヴィヴァン、西武百貨店池袋店、東京

1993 「大竹伸朗　網膜」ギャルリー・ところ、東京

1991 「大竹伸朗の仕事　ECHOS　55–91」西武アート・フォーラム、西武百貨店池袋店、東京；なんば CITY ホール、大阪

「大竹伸朗の仕事　ECHOS　89+91」ザ・コンテンポラリー・アートギャラリー、西武百貨店池袋店、東京

「大竹伸朗　ECHOS　1–100」アールヴィヴァン、西武百貨店池袋店、東京；カンカンポア・ドゥ、大阪

「大竹伸朗の仕事　ECHOS 71–91」ギャルリー・ところ、東京

Take Ninagawa

1990 「大竹伸朗　Shipyard Works 1990」寺田倉庫、Space T33、東京
「大竹伸朗　Recent Works 1988–1990」ギャルリー・ところ、東京
1989 「大竹伸朗　America」アール・ヴィヴァン、西武百貨店池袋店、東京
1988 「大竹伸朗　Dreams 展」ギャルリー・ダン、大阪
「Canvasism—夢と細胞　大竹伸朗新作展」西武アート・フォーラム、西武百貨店池袋店、東京
1987 「大竹伸朗展　1984–1987」佐賀町エキジビット・スペース、東京
「大竹伸朗展　EZMD & ETCHINGS」ギャルリー・ダン、大阪
「〈倫敦／香港〉1980」ギャルリー・ダン、大阪
「ロンドン／ホンコン 1980 Part II」みゆき画廊、東京
1986 「ロンドン／ホンコン 1980」ヒルサイド・ギャラリー、東京
1985 未来の日本前衛「大竹伸朗—放浪する言語」、Palazzo Bianco、ジェノヴァ
「大竹伸朗 ペインティング／コラージュ」Institute of Contemporary Art、ロンドン
1984 「大竹伸朗 1983–1984」ギャルリー・ワタリ、東京
1982 「大竹伸朗 個展」ギャルリー・ワタリ、東京

主なグループ展

2026 「Guggenheim Pop: 1960 to Now」ソロモン・R・グッゲンハイム美術館、ニューヨーク
「NHK 日曜美術館 50 年展」東京藝術大学大学美術館；静岡県立美術館；大阪中之島美術館
「Chase a Crooked Shadow: Film Noir as Contemporary Mirror」The Warehouse、ダラス、テキサス州、アメリカ
「Certainly」GOLD、香港；Path Omotesando、東京
2025 「時代のプリズム：日本で生まれた美術表現 1989–2010」国立新美術館、東京
瀬戸内国際芸術祭 2025
「ミネバネ！現代アート タグチアートコレクション」秋田県立美術館；秋田市立千秋美術館
「トロイメライ」原美術館 ARC、群馬
「所蔵作品展 MOMAT コレクション」東京国立近代美術館
「Blumen」Take Ninagawa、東京
2024 「Neither IX: David Lieske and Shinro Ohtake」Neither、ロンドン
「A Product of Time: 25 Years of TWO x TWO for AIDS and Art」The Warehouse、ダラス、テキサス州、アメリカ
2022 「Neoclassical」Rodeo、ピレウス、ギリシャ
ハワイトリエンナーレ 2022「Pacific Century – E Ho ʻomau no Moananuiākea」
「オルタナティブ！小池一子展 アートとデザインのやわらかな運動」3331 Arts

Take Ninagawa

Chiyoda、東京

2021 「Art/Music わたしたちの創作は音楽とともにある」世田谷美術館、東京

2020 「東京 2020 公式アートポスター展」東京都現代美術館

2019 「Phantom Plane, Cyberpunk in the Year of the Future」JC Contemporary、大館現代美術館、香港

「MOMAT コレクション」東京国立近代美術館、東京

「タグチ・アートコレクション　球体のパレット」北海道立帯広美術館；北海道立釧路芸術館；北海道立函館美術館；札幌芸術の森美術館

瀬戸内国際芸術祭 2019、豊島、香川

「百年の編み手たち—流動する日本の近現代美術—」東京都現代美術館

「開館 25 周年　ニュー・ペインティングの時代」高知県立美術館

2018 「バブルラップ:『もの派』があって、その後のアートムーブメントはいきなり『スーパーフラット』になっちゃうのだが、その間、つまりバブルの頃って、またネーミングされてなくて、其処を『バブルラップ』って呼称するといろいろしっくりくると思います。特に陶芸の世界も合体するとわかりやすいので、その辺を村上隆のコレクションを展示したりして考察します。」熊本市現代美術館

第 9 回アジア・パシフィック・トリエンナーレ、ブリスベン、オーストラリア

「Sharjapan: The Poetics of Space」Al Hamriyah Studios、シャルジャ

「Epoch」ROH Projects、ジャカルタ

「Flash 1977 ／ 1989」ハラミュージアムアーク、群馬

「起点としての 80 年代」金沢 21 世紀美術館；高松市美術館；静岡市美術館 – 2019

「181 枚の記憶—高松市美術館特別展の歩み—」高松市美術館、香川

「10th Anniversary」Take Ninagawa、東京

「21 世紀の美術 タグチ・アートコレクション展 アンディ・ウォーホルから奈良美智まで」平塚市美術館、神奈川

「モダンアート再訪—ダリ、ウォーホルから草間彌生まで 福岡市美術館コレクション展」横須賀美術館、神奈川；広島市現代美術館；埼玉県立近代美術館；鳥取県立博物館

「開館 40 周年記念展 トラベラー まだ見ぬ地を踏むために」国立国際美術館、大阪

「現代美術に魅せられて 原俊夫による原美術館コレクション展」原美術館 、東京

2017 「In Focus: Contemporary Japan」ミネアポリス美術館、ミネソタ州、アメリカ

「日本の絵本 100 年の歩み」ちひろ美術館、東京

「Japanorama 1970 年以降の新しい日本のアート」ポンピドゥ・センター・メッス、フランス

2016 「谷川俊太郎展・本当の事を云おうか・」大岡信ことば館、静岡

「所蔵作品展　MOMAT コレクション」国立近代美術館、東京

Take Ninagawa

「The Keeper」New Museum、ニューヨーク
「夏・旅・語り—原美術館コレクション」ハラミュージアムアーク、群馬
瀬戸内国際芸術祭 2016
「Strange and Familiar: Britain as Revealed by International Photographers」バービカンセンター、ロンドン ; マンチェスター・アート・ギャラリー – 2017

2015 「Books of Asia」Asia Culture Center、光州
「Duddell’ s presents: ICA Off-Site: Hong Kongese」Institute of Contemporary Art、ロンドン
「An Imprecise Science」Artspace、シドニー
「開館 20 周年記念　MOT コレクション特別企画：コレクション・ビカミング」東京都現代美術館

2014 「開館 20 周年記念　MOT コレクション特別企画：クロニクル 1995—」東京都現代美術館
ヨコハマトリエンナーレ 2014「華氏 451 の芸術:世界の中心には忘却の海がある」

2013 「5th Anniversary」Take Ninagawa、東京
第 55 回ヴェネツィア・ビエンナーレ「The Encyclopedic Palace」
瀬戸内国際芸術祭 2013、女木島、香川
「路上と観察をめぐる表現史—考現学以後」広島市現代美術館

2012 ドクメンタ 13「Collapse and Recovery」カッセル
「Double Vision: Contemporary Art from Japan」モスクワ市近代美術館；ハイファ美術館群、イスラエル

2010 第 8 回光州ビエンナーレ「10,000 Lives」
「これも自分と認めざるをえない」21_21 DESIGN SIGHT、東京
瀬戸内国際芸術祭 2010

2009 「I Believe　日本の現代美術」富山県美術館
「MOT コレクション　MOT で見る夢」東京都現代美術館

2006 「Fix・Mix・Max! 現代アートのフロントライン［最前線］」北海道立近代美術館、札幌
「水はつねに複数で流れる　東野芳明を偲ぶオマージュ展」ギャラリー TOM、東京
「直島スタンダード 2」地中美術館、直島、香川
「開館 25 周年　世界　日本　富山　アートシンフォニー：20 世紀美術の響き」富山県美術館
「武満徹　Visions in Time」東京オペラシティアートギャラリー
「収蔵品展 20 抽象の世界—色・かたち・空間：東京オペラシティ コレクションより」東京オペラシティアートギャラリー

2005 「decade—CCGA と 6 人の作家たち」CCGA 現代グラフィックアーツセンター、

TAKE NINAGAWA

福島

2004 「美しき旅—人生をめぐって」富山県美術館
「再考：近代日本の絵画—美意識の形成と展開・第 2 部」東京都現代美術館

2003 第 41 回岡山市芸術祭公式プログラム「Love Planet：愛の惑星」
「絵とものがたり すてきなえほん・絵本の教育的効果と芸術性」姫路市立美術館

2002 「Love and/or Terror: A Book Arts Exhibitions」アリゾナ大学美術館、ツーソン、アメリカ
「本と美術—20 世紀の挿絵本からアーティスツ・ブックまで」徳島県立近代美術館
「収蔵品展 2002– I 新収蔵作品展 + 現代絵画入門」広島市現代美術館
竹尾ペーパーショウ 2002「Please：あなたから、よい、たより」スパイラル、東京

2001 「本という美術—大正期の装幀から現代のオブジェまで—」うらわ美術館、埼玉
「あるコレクターがみた戦後日本美術」群馬県立近代美術館；愛媛県美術館
「スタンダード展」直島コンテンポラリーアートミュージアム、香川
「大竹伸朗とディーター・ロート 見る・読む・触れるアーティスト・ブック」うらわ美術館、埼玉

1999 「アート・ジャングル こどもとたんけん」富山県美術館
「日本ゼロ年」水戸芸術館現代美術ギャラリー
「時代の体温 ART/DOMESTIC」世田谷美術館、東京
「現代美術のレッスン I」秋田市立千秋美術館

1998 「Connections/Contradictions: Modern and Contemporary Art from Atlanta Collection」マイケル C. カルロス博物館、エモリー大学、アトランタ、ジョージア州、アメリカ
「都築響一 + 大竹伸朗　青山秘宝館」NADiff Gallery、東京

1997 「原美術館コレクション展　人間模様」ハラミュージアムアーク、群馬

1996 「パイプライン 宇和島⇔大阪 Puzzle Punks 大竹伸朗 + ヤマタカ EY ヨ」ザ・ギンザ・アートスペース、東京
「高知県立美術館［コレクション展］ニュー・ペインティング・コレクションを中心に」高知県立美術館
「20 世紀美術の変容」セゾン現代美術館、長野

1995 「日本のブックデザイン 1946-95」ギンザ・グラフィック・ギャラリー、東京

1994 「600 ソウル国際美術展」国立現代美術館、ソウル
「三木富雄／田中信太郎／大竹伸朗」ギャルリーところ、東京
「ヒロシマ：21 世紀へのメッセージ展」熊本県立美術館；大丸ミュージアム梅田、大阪；郡山市立美術館、福島；広島市現代美術館
「断面 1979-1994　原美術館 15 周年記念展」ハラミュージアムアーク、群馬

TAKE NINAGAWA

「オープンエア’94　アウト・オブ・バウンズ 海景の中の現代美術展」ベネッセハウス、直島コンテンポラリー・アート・ミュージアム、香川
「アート・アゲインスト・エイズ・ジャパン アーティストの眼　クリエイターによる写真展」ランドマークホール、神奈川
「セゾン現代美術コレクション　戦後日本の絵画—新収蔵品を中心に」セゾン現代美術館、長野
「VOCA’94　現代美術の展望：新しい平面の作家たち」上野の森美術館、東京

1993 「親と子でみる現代美術：まなぶ あそぶ 美術の世界」富山県美術館
「日本現代彫刻の系譜—収蔵作品による」富山県美術館
第1回アジア・パシフィック・トリエンナーレ、ブリスベン、オーストラリア
「開館10周年記念特別展　近代日本美術の流れと油井一二コレクション」佐久市立近代美術館、長野

1992 「MASK 顔・表情」ギャラリー・TOM、東京
「三木富雄／田中信太郎／大竹伸朗」ギャルリー・ルイ・カレ、パリ

1991 「Japan Art Today 北欧4カ国巡回記念 現代日本美術の多様展」セゾン現代美術館、長野
「キャビネット・オブ・サインズ」テート・ギャラリー、リバプール；Whitechapel Art Gallery、ロンドン；Malmö Kunsthalle、マルメ、スウェーデン – 1992
「マンガ／コミック・ストリップ・ブックス・フロム・ジャパン」ポメロイ・パーディ・ギャラリー、ロンドン
「開館3周年記念　20世紀・日本の絵画：Modernism and beyond」ふくやま美術館、広島
「ハイブリッド・ガーデン 現代美術6人展」ビギ・アート・スペース、京都
「アムネスティ フリーダム ‘90s ポスター展」横浜美術館
「野生の復権　開館5周年記念展：コレクションからのメッセージ」世田谷美術館、東京

1990 「Japan Art Today 現代日本美術の多様展」ストックホルム文化会館；シャーロッテンブルク美術展会場、コペンハーゲン；ヘルシンキ市立美術館レイキャビク市立美術館 – 1991
「幻想の力　日本の近・現代美術から」宮城県美術館
「80年代の日本現代美術」Bonn Kunstverein、ボン、ドイツ；ウィーン近代美術館；Bregenzer Festspiele、ブレゲンツ、オーストリア；Frankfurt Kunstverein 、フランクフルト – 1991
「ファルマコン ‘90 幕張メッセ現代の美術展」幕張メッセ、千葉

TAKE NINAGAWA

「世界の飢えを考えよう 国際美術展」世田谷美術館、東京
「コレクション展」原美術館、東京
第 1 回タイン国際現代美術展「ニュー・ネセシティ」Laing Art Gallery、ニューカッスル・アポン・タイン、イギリス
「作法の遊戯：90 年春・美術の現在」水戸芸術館 現代美術ギャラリー

1989 「Alpha Cubic Art Collection」Alpha Cubic Gallery、東京・パリ
「アゲインスト・ネイチャー：80 年代の日本現代美術」サンフランシスコ近代美術館、カルフォルニア州；アクロン美術館、オハイオ州、アメリカ；MIT リスト視覚芸術センター・ボストン銀行アート・ギャラリー、マサチューセッツ州、アメリカ；シアトル美術館；シンシナティ現代美術センター；Grey Art Gallery、ニューヨーク大学；ヒューストン現代美術館、テキサス州、アメリカ ; ICA 名古屋 – 1991

1987 「‘87 ADC 賞展」G7 ギャラリー、東京；ギンザ・グラフィック・ギャラリー、東京；ザ・ギンザ・アートスペース、東京
「アーチスト 50 人に描かれた現代女性 50 人の肖像展」ザ・ギンザ・アートスペース、東京

1985 「Artists’ Books: Japan 日本のアーティストガ創った『本』の展覧会」Franklin Furnace、ニューヨーク

1984 第 20 回今日の作家 ‘84 展「[面] をめぐる表現の現在」横浜市民ギャラリー

1983 「アンタイトルド」Lawrence Oliver Gallery、フィラデルフィア、ペンシルベニア州、アメリカ

1981 「第 1 回西武美術館版画大賞展」西武美術館、東京
「Art Pop Japan—Tokyo Today」Institute of Contemporary Art、ロンドン

1980 「チャイナタウン・ファンタジア展」ラフォーレ・プラザ、東京

1979 「θ（シータ）」ヴィレッジ・ギャラリー、西武百貨店池袋店、東京

主なライブ・パフォーマンス

1996 「デストロイ・オール・モンスターズ 日本ツアー ‘96」ラフォーレミュージアム原宿、東京

1985 「ライブ・ワンズ！ 1985」(with Russell Mills)、オックスフォード近代美術館、イギリス

1980 「クルバ・カポル」(with Bruce C. Gilbert, Graham Lewis and Russell

Mills)、ノートルダム・ホール、ロンドン

主なパブリック・ワーク

2021　《熱景 / NETSU-KEI》道後温泉本館、松山、愛媛
2019　《覗き岩》パフィオうわじま、愛媛
2016　《針工場》豊島、香川
2013　《女根 / めこん》女木島、香川
2009　《直島銭湯 I ♥湯》直島、香川
2006　《はいしゃ〈舌上夢 / ボッコン覗〉》直島、香川
2000　《北の空に浮かぶカタチ》札幌市生涯学習センター・ちえりあ
1994　《シップヤード・ワークス》シリーズ（《切断された船首》《船尾と穴》《船底と穴》《隔壁 I-VII》《箱の上の隔壁 I-II》）直島、香川

受賞、レジデンシー

2024　第 65 回毎日芸術賞
2015　Creative Workshop program、シンガポール・タイラー・プリント・インスティチュート
2014　芸術選奨文部科学大臣賞 美術部門
1995　Cultural Olympiad, Atlanta Committee for Olympic Games、ジョージア州、アメリカ
1989　USIA 及びアーティスト・コロニー基金、複数会場、アメリカ

主なコレクション

ヴィクトリア & アルバート博物館
愛媛県美術館
M+、香港
クイーンズランド州立美術館 / 近代美術館
グッゲンハイム美術館
公益財団法人福武財団
高知県立美術館
駒ヶ根高原美術館
佐久市立近代美術館
札幌市生涯学習総合センター・ちえりあ
シカゴ美術館

Take Ninagawa

CCGA 現代グラフィックアートセンター
セゾン現代美術館
世田谷美術館
高松市美術館
ダラス現代美術館
彫刻の森美術館
東京オペラシティアートギャラリー
東京国立近代美術館
東京都現代美術館
富山県美術館
新津市美術館
ニューヨーク近代美術館
パフィオうわじま
広島市現代美術館
福岡市美術館
原美術館
ふくやま美術館
ベネッセアートサイト直島
ミネアポリス美術館